

# 大学ボクシングにおけるメディカルサポート体制の現状と展望

## The medical support system in the Japanese collegiate amateur boxing —its reality and prospect—

1K04A229-9

水沼 有威子

指導教員

主査 中村千秋先生

副査 内田直先生

### 緒言

あらゆるスポーツにおいて、競技中の様々な危険に備えた対策が取られ、アマチュアボクシングでも連盟を中心に医事管理が徹底されている。

しかし、私自身の大学ボクシング部学生トレーナーの活動の中では、競技中起こり得る傷害や、医学的検査や治療の重要性への認識が低い競技関係者が多い印象を受けた。先行研究からも同競技は多くの危険を伴うスポーツであることが明らかである。

このことから、現場に反映されているメディカルサポート体制の実態や、競技関係者の意識や心がけなどの程度を明らかにしたいと考えたが、同競技全体における安全対策や医療体制に対する意識や認識の調査報告は見当たらない。そこで、本研究では、大学ボクシング関係者へのアンケート調査により、メディカルサポートの必要性や充実度についての意識や認識を明らかにすることで、今後のメディカルサポートのあり方を検討することを目的とした。

### 方法

大学ボクシング部に所属し、公式試合経験のある男性選手 91 名(年齢 20.2±1.4 歳およびボクシング歴 4.4±1.9 年)と、各都府県アマチュアボクシング連盟登録審判・指導者 10 名を本研究の対象者とした。

質問の内容は、「競技規則」や「医事ハンドブック」の健康管理や安全対策に関する記述についての認識の程度や、競技中起こり得る傷害や医師による検査や治療への関心の程度、現在の大学ボクシングにおける医療体制や競技関係者に求めることなどを聞くものであった。

2007 年 11 月前半に調査を実施し、アンケートの配布・回収は、手渡し、E メール、および郵送にて行った。

### 結果

選手への質問では、91 名中 79 名が医事ハンドブックを知らないと答え、競技停止の解除あるいは競技停止期間の短縮については 6 割以上が認識していなかった。また、44 名の選手が、自主的に医師の診察・検査をほとんどあるいはまったく受けないと答え、複数回答可でその理由を聞いたところ、28 名が「面倒だから」、23 名が「自分の経験や感覚から大丈夫だと思うから」と答えた。連盟や医師による教育的機会があれば、62 名の選手が無条件にあるいは内容によっては参加したいと答えた。

審判・指導者への質問では、10 名中 7 名が医事ハンドブックを携帯していて、競技規則や医事ハンドブックの内容はほぼ全員が認識し、選手たちに守らせていると答えた。10 名中 5 名の大学ボクシング部指導者または指導経験者に、連盟や医師による教育的

機会があれば参加したいかを聞いたところ、全員が参加したいと答えた。

### 考察

選手の回答から、選手の健康管理や安全対策に対する意識は全体的に低いと言えるだろう。また、医事ハンドブックの存在のみで内容を知らない選手や、競技規則や医事ハンドブックの内容を知っていても所属大学ボクシング部における安全対策や緊急体制への関心は低い選手もいて、一人一人の意識の中でも矛盾があるような印象を受けた。

しかし、競技現場に明確な安全対策を求める声は高く、医師など専門家による教育的機会に対する関心は低くないと言える。これらのことから、何かしら意識は持っているが、知識や環境が十分でない為に実行に移せないでいる選手も多くいるのではないかと考えられる。

審判・指導者の回答から、審判・指導者の選手の健康管理や安全対策に対する意識は、選手に比べて十分に高いと言える。自分たちの持つ意識や知識を選手たちに十分に伝えようとする姿勢も見られ、競技の危険性についての理解もあるようだが、選手に自己管理の意識を高く持ち、健康・安全のために明確な意思表示を求めていることなどから、安全や医師による診察・検査の重要性に対する審判・指導者の意識と選手の意識には少なくとも食い違いがあるようだ。

この現状を改善するために、大学ボクシング部、日本連盟、各都道府県連盟、各種医療機関などの間で十分な連携を取り、対象者の多くが求めている教育的機会を設け、選手たちに健康管理や安全対策への関心をより高く持たせるために、必要な検診の義務化を図るべきであろう。

### 結論

選手たちの競技上の健康管理や安全対策に対する意識や、現在のメディカルサポートに対する関心・認識は低い傾向を示した。審判・指導者については選手に比べて高いものであったが、その高い意識や認識が選手たちと共有できていない残念な現状が伺えた。

今後のメディカルサポートにおいて、大学ボクシング部、日本連盟、各都道府県連盟、各種医療機関などの間で十分な組織化に取り組み、必要な検診の義務化を進め、医師だけでなく、選手、審判・指導者、医事委員以外の連盟役員と言った競技に関わる全ての人を対象に積極的な教育活動を実施し、加えて、メディカルサポートチーム構築の検討を行うことが必要である。